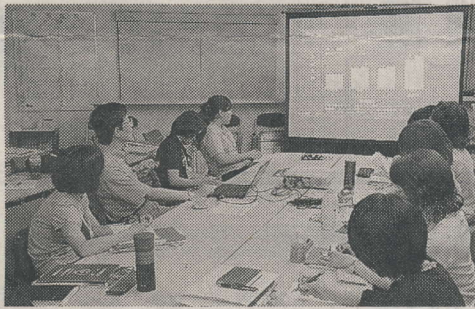


## はなしの横丁



7月に、地元の町おこしボランティア「津屋崎千軒海とまちなみの会」(吉村勝利会長)が開設した。参加者たちは松林を歩きながら、松の根元に咲く花や幼木などを観察。植物の外来種と在来種の違いなどを専門家に聞きながら、散策を楽しんだ。

## 久山 久山町舞台の疫学調査学ぶ

九州大が久山町で1961年から続ける町民健康診断を基にした疫学調査「久山町研究」について、保健師らが学ぶ教室が7～9日、同町久原のヘルスC&Cセンターであった。自治体や企業、大学研究者らで構成し、地域課題の解決を目指す「プラチナ構想ネットワーク(東京都)」が協力。遠くは北海道や和歌山から保健師9人、保健師を志す学生3人が参加した。

研究を担当する九大医学研究院の清原裕教授との懇談では、清原教授が、当時世界で突出して高かった日本の脳卒中死亡率が正しいかどうかを調べるために始めたことを紹介し写真。「40歳以上の住民を定期的に対象者に加えており、日本の健康課題について新たな知見を得ている」とアピール。

同教授は「久山町では保健師の働きで健康診断の受診率が高く、研究の精度を高めている」とも指摘。参加者はうなずきながら、研究の独自性に驚いていた。